

日本とアジアをつなぐ架け橋に！ “日本語パートナーズ”ミャンマーへ初派遣 日本語教育の現場で、双方向の文化交流を目指す

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)アジアセンターは、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までに、3,000人以上の“日本語パートナーズ”をASEAN諸国(東南アジア諸国連合)へ派遣する事業を、2014年度より開始しています。この度、本事業として初めて、ミャンマーへ、5月下旬より約10か月の予定で1名を派遣します。

今回“日本語パートナーズ”として派遣される鈴木 聡さん(22歳)は、ミャンマーにおける民主化の動きに興味を持ったことがきっかけで、大学ではビルマ語を専攻。ヤンゴン大学への短期留学や個人旅行で実際に訪れたミャンマーで、どこか懐かしさを感じる国民性や人々の優しさ、文化の奥深さに触れ、また現地での日本文化への関心の高さを知り、もっと深くミャンマーと関わりたいという思いから参加を決めました。5歳から磨き上げた得意の和太鼓や、大学の文化祭で披露したビルマ語での落語の経験を活かして日本文化を紹介するとともに、現地の伝統文化や習慣を学び、日本とミャンマーの架け橋になりたいと意気込みを語っています。



“日本語パートナーズ”ミャンマー1期 鈴木聡さん

事業の詳細やご取材については、お問い合わせください。

■“日本語パートナーズ”ミャンマー1期

- 【氏名】 鈴木 聡(さとし) (22歳)
【所属】 東京外国語大学 ビルマ語専攻(4年生)
【期間】 2015年5月下旬～2016年3月(10ヶ月)
【派遣校】 ヤンゴン外国語大学 日本語学科

＜ミャンマーにおける日本語教育＞

日本語教育の歴史は長く、今回“日本語パートナーズ”が派遣されるヤンゴン外国語大学(旧国立外国語学院)日本語学科は、創設から51年目を迎える。国際交流基金でも日本語教育において様々な支援を行っており、同大学日本語教師を日本で実施する研修へ招いたり、同大学大学院へ日本語専門家を派遣し、次世代の日本語教師の育成を行っている。昨年10月には官民合同では初めて大規模な日本語教師セミナー「ミャンマー日本語教師のつどい」が開催され、現地の日本語教師からは日本の文化紹介をより積極的になりたいとの要望が寄せられており、今回派遣される“日本語パートナーズ”に対しても、日本語教師のアシスタントとして期待が高まっている。

本派遣事業では、タイ2期40名も5月19日(火)に出発を予定しています。また2014年度に派遣された“日本語パートナーズ”たちも順次帰国をしており、報告会やウェブサイトにて現地での活動についてお伝えする予定です。詳細については、ウェブサイト(<http://jfac.jp/>)をご覧ください。

【“日本語パートナーズ”とは】

2020年までに3,000人以上をASEAN諸国(東南アジア諸国連合)へ派遣する2014年度から開始された事業。海外の日本語教育の現場で、現地の先生をサポートしながら日本文化を紹介する等、派遣される国での日本に対する理解を深めるため日々活動しています。

●主催者・本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 アジアセンター 日本語事業チーム (担当:濱田、青山)

Tel: 03-5369-6095 / E-mail: nihongopartners@jpf.go.jp

●取材に関するお問い合わせ: 国際交流基金 コミュニケーションセンター(担当:川久保、麦谷)

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp